

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

# ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり  
vol.  
192  
2021.1  
学びから行動へ、行動から学びへの循環



昨年の「木とねっこ」冬の活動風景。自然が遊び場、学び場です！

## 特集

# のんびりゆったり、 自然の力を借りて

あおぞら自主保育の会 木とねっこ

- 04 私たちの活動をご紹介します！  
音訳ボランティア ザ・スピリッツ(米子市)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報  
(1・2月)
- 21 生涯学習担当者紹介(センター)
- 22 「笑う門には福来る」は本当か  
鳥取県立米子東高等学校 研究発表
- 23 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 25 みてみて♪こんなしとるで～



安らく場所って、室内の人もいると思うんですよ。自然がいいとか、外遊びがいいとか、人それぞれ違うけれど、親の選択肢の中に私たちの活動があり続けたいと思っています。実際、私たちはこの鳥取の自然の中で子育てをして、すごく良かったなって思っているのよ。

左から幸田ふみさん、牧田育子さん、三村稚賀さん。

のんびりゆったり、自然の力を借りて

## あおぞら自主保育の会 木とねっこ

鳥取県中部で、豊かな自然を活かした育ちの場づくりを行う子育てサークル「あおぞら自主保育の会 木とねっこ」。活動について、メンバーの三村稚賀さんにお話を伺いました。

### 自然の力を借りて子育てをしたい！

活動を始めたきっかけは、自身の子育てのためだったという三村さん。学生時代に当時、八頭町にあった牧場\*<sup>(1)</sup>でポニーと子どもたちに関わるボランティアを6年間経験したことから、自分で子どもをみたいという思いがありました。「自然を活かした子育てをしたかったし、鳥取の豊かな自然を活かさないとどうするの?! っていう気持ちもありました。2011年の東日本大震災にも影響を受けましたね。何でも人任せにするのではなく、できることは自分でしたいと思って」と話す三村さん。

当時、空山で赤ちゃんとお母さんの居場所づくりをされていた方との縁で、東部の「森のようちえん」に自分の子どもを通わせていた牧田育子さんと、保育士の資格を持つ幸田ふみさんに出会い、意気投合。平成26年、牧田さんと幸田さんと共にあおぞら自主保育の会「木とねっこ」（以下、「木とねっこ」という）を立ち上げました。

\*<sup>(1)</sup>平成16年から鳥取市越路の「空山ポニー牧場」に移る。

そのころ、東部では「森のようちえん」の活動が盛んでしたが、中部にはまだなく、3人の生活の基盤が中部であったこともあり、中部で活動を展開することに。「自然の力を借りながら自分たちで子育てができることを東部の森のようちえんが示してくれて。その理念を理解することで、私たちにもできるかもって思えたんですよ」と、当時を振り返ります。

いろいろな命のある場所で、命を感じながら、鳥取の自然を活かして伸びやかに子育てをしてもらいたいと活動を続ける「木とねっこ」。週に1回の会員制保育「ようちえん組」とだれでも参加できる「プレーパーク」\*<sup>(2)</sup>に取り組みます。

 \*<sup>(2)</sup> プレーパークって? 

子どもたちの自由な発想で、自然の素材や遊び場にある道具を使って、子どもたちの「やってみたい」を大切に、そしてカタチにできる遊び場。水遊び、泥んこ遊び、たき火や工作、思い思いの遊びがいっぱい。

## ようちえん組〈体験・見学随時募集〉

※会員制の保育で、週に1回開催

**対象** 0歳～2歳以下は親子で参加、3歳以上は慣れてくるとお互いの子どもを見合う自主保育

**活動日** 火曜日 10:00～14:00

**内容** 自然の中でおさんぽ、畑仕事、季節の手仕事など

## プレーパーク

※どなたでも参加可能。開催日はFacebook等でお知らせ

**対象** 0歳～何歳でも

**開催日** 季節に1回程度（年に4～5回）

**内容** 場所や季節に応じて生まれる遊びはさまざま

## 子ども親も、伸び伸びリラックス

「木とねっこ」は、お互いの子どもを見合う自主保育。自分の子だと、親は責任感でいっぱいになりますが、どの子に対してもおおらかに見守ることができるようです。

「子どもたちを自由気ままにさせるのとも違って、子どもたちが自分で考えて主体的に動くことで、成長していくことができる場にしたい」と話す三村さん。例えば、部屋の中だと、子ども同士がおもちゃを取り合いになった時、親は譲り合う方向に誘導してしまいがち。自然の中では、子どもたちが本当はどうしたいのかを親は見守りたいと願います。

「普段は幼稚園や保育園で過ごす子どもも多いため、この活動がどれだけ子どもたちに影響を与えているかは不明。でも、親は確実に生き生きとしてリラックスもして、家庭で子どもたちにいい影響を与えていることは確か」と続けます。

プレーパークの取組を取材した時に、子どもたちがみんなで描いた絵



## プレーパークで「たき火」は必須

「木とねっこ」のプレーパークには、「たき火」があります。たき火があれば、そこはもう非日常的な空間、特別な場所へと変わります。たき火で野焼きパンやカレーを作ったり。子どもたちにもたき火は大人気。遊びの中で、葉っぱや松ぼっくりなどをどんどん集めてきて燃やします。親子でたき火を体験することで、火を使うという昔からの人の営みを大事にしています。

## 「つながり」が活動の輪を広げる

これまで、湯梨浜町でプレーパークを実践する方から竹のジャングルジムを建てる方法を教わったり、ボランティアでシャボン玉を飛ばしたりバルーンアートをする方から「木とねっこ」の活動に協力を申し出てもらったことも。

また、「ようちえん組」を卒園した子どもたちが、友だちと遊びに来てくれることも。さらには、子どもが大きくなってからもプレーパークを手伝いに来てくれるお母さんもいます。「私たちが頑張りすぎなくても、こういうふう遊ぶ場だということをよくわかってくださっていて。カブトムシの幼虫がたくさん生まれたからと持ってきて縁日みたいに配ったり、たき火の番をしたり。楽しみながら手伝ってくださりとてもありがたいです」と笑顔で話す三村さん。地域の人とつながることでさまざまな協力が得られ、活動の輪が広がっています。

### ★おすすめの遊び

- ・ **たき火** 火を見つめるだけで心が落ち着きます。
- ・ **植物で遊ぶ** 野の花の花束づくり、木の実のままごとなど、遊びは無限に広がります。
- ・ **虫探し** いろいろな虫がいることにびっくり！

### ★中部おすすめスポット（外遊び・自然編）

あやめ池公園／北栄町オートキャンプ場／大平山公園

### ★大切にしていること

- その1** 時間を忘れて思いっきり遊ぶ「子ども時間」
- その2** 子どもの思いや行動を尊重しながら「見守る」
- その3** 子どもも大人も共に育つ

## 「学びたい」という意欲もできて

活動を始めて6年が経過。自分たちの子どもが大きくなって「木とねっこ」を利用しなくても活動を継続中です。活動を続けるうちに、「学びたい」という意欲もできて、牧田さんと三村さんは保育士の資格を取得しました。「子どもと自然と親と、こういう場を創ることは、まだまだ奥が深くなって。活動をやればやるほど感じています」と三村さん。

今後は、今の活動を続けながら、その先には、日常的にも自然の中で親と子がのんびりできる自由な場を作ることができればと考えます。そのために何ができるのか、学びながら模索し続けます。



暖かく、食べものを作ることもできる「たき火」。取材当日は、おやつにサツマイモと栗が焼かれ、子どもたちが笑顔でほおぼる姿が見られました。

## 外遊びのフリーペーパーを紹介します！



子どもとおとなが  
外に遊びに行きたくなる！  
フリーペーパー

# #ソトイク



内容は  
コチラ

- 発行者** 山陰両県を子ども達の豊かな自然体験の場にする会
- 問合せ先** とっとり森のようちえん会議  
080-6848-4188

連絡先

あおぞら自主保育の会  
木とねっこ

【代表】 牧田育子さん 090-4146-2131  
電子メール：kitonekko@gmail.com  
Facebook：https://www.facebook.com/kitonekko



# 私たちの活動を紹介します

米子市

## 音訳ボランティア ザ・スピリッツ

寄稿：中川 容子さん

＜連絡先＞社会福祉法人鳥取県ライトハウス  
点字図書館  
TEL (0859) 22-7655

＜設立年＞平成4年

＜会員＞

主婦や、退職した医療関係者・アナウンサー業務経験者など、36名



25周年記念にロゴマーク入りのジャケットを制作し、総会では全員がジャケットを着用しました。

### すみやかに、正確に

私たちは音声を通して視覚障がい者の方々に情報を提供しています。毎月発行のとっとり県政だより、広報よなご、広報北栄、市報さかいみなと、広報ゆりはまなどの広報誌や年4回発行の議会だより等の音訳、テープ・CDの録音確認、郵送作業等を行っています。すみやかに、正確に情報をお伝えすることをモットーに、土・日・祝日はもちろんのこと、年末年始にも活動を続けています。

活動する上で大切にしていることは、音訳する際に疲れない読み方をすることです。そのため、発音練習や発声練習を欠かさず行うなど、日々研鑽に励んでいます。

### 幸せを運ぶ声の仕事

広報誌等の音訳も行いますが、実は音訳図書（録音図書）の制作が活動の第一目的です。鳥取県点字図書館は全国的には小さな図書館ですが政治評論や古典、長篇などの音訳を制作することが多々あります。そして、北海道や名古屋、福岡などの利用者から、点字でお礼が届いたときは、今までの苦勞が吹き飛びました。

また、日本視覚障害者団体連合の会長 竹下義樹さんに「皆さまの声で私たちは幸せをいただいています」と言っていたいたり、今年音訳した「資本主義と闘った男—宇沢弘文と経済学の世界」の著者から「650ページもある本をよくぞ音訳していただきました」と連絡が届いた際には、私たちのボランティアは様々なところに幸せを運んでいるのだと、これからの励みにもなりました。

活動拠点

- 社会福祉法人鳥取県ライトハウス
- 米子市社会福祉協議会（ふれあいの里）

### 成長を知る幸せ

2年もかかって音訳した本の制作が完了したときは、喜びとともに、私たち自身が成長していると実感しました。書籍を読みすすめ、音声化することだけでも楽しいことなのに、その上喜んでいただいていると知ったときは、音訳ボランティアほど素晴らしいボランティアはないとさえ思いました。

### 今後の目標

音訳ボランティアは使命感、忍耐力、責任感が必要で、生半可な気持ちで続けることはできません。そのため、10年、20年と続けてボランティアをしてくださる人がどれほどありがたいことかと思えます。一方で、ボランティアの高齢化は否めないため、若い人に少しでも関心を持っていただき、どんどん参加したくさんの本を音訳していただきたいと思っています。ボランティアをしたいという強い思いがあれば、なんとか時間は作れるものです。

合成による音訳も増えていますが、やはり人間の温もりのある声が求められています。できるだけすみやかに録音図書を制作することが今以上に求められています。



視覚障がい者の方との交流も大切にしており、2019年3月には、妻木晩田ウォーク&名和公園でお花見をしました。